

国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の実証

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人森林研究・整備機構 山中高史

2 研究期間：令和7年度～令和9年度（3年間）

3 研究目的

国産トリュフの林地栽培の開発に向けて令和6年度までの応用研究ステージにて開発した研究成果に基づいてトリュフ苗木生産およびトリュフ栽培技術の社会実装化を目的とする。

4 研究内容及び実施体制

① トリュフ苗木生産評価システム構築

トリュフ菌共生樹木を安定的に生産する技術を開発するとともに、トリュフ菌根形成状況を評価する技術を開発する。

（信州大学農学部、長野県森林総合センター、森林研究・整備機構）

② トリュフ栽培実証試験

耕作放棄地などを整備してトリュフ農園としてトリュフ栽培実証試験を行う。成果の普及に向けての栽培マニュアルを作成する。

（信州大学農学部、長野県森林総合センター、森林研究・整備機構）

5 最終目標

トリュフ菌共生苗の品質を評価する手法を開発する。2箇所のトリュフ栽培園実証試験地でのトリュフ菌の定着を根系でのトリュフ菌根形成により確認する。トリュフ栽培技術マニュアルを作成する。

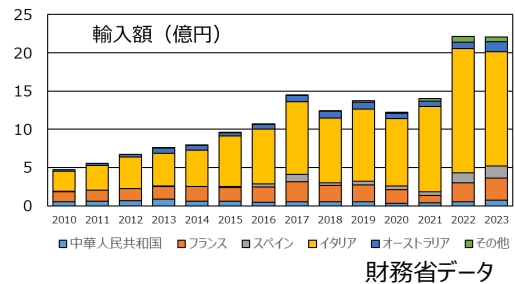
6 期待される効果・貢献

トリュフ菌を共生させた高付加価値苗木の生産やトリュフ栽培事業の実施。国産の新規食材の流通によって食品加工業や外食産業が発展する

○研究の目的(背景)



トリュフー西洋料理に欠かせない高級食材となる菌根性きのこ



近年、輸入額が4倍に増加

中山間地域の活性化と新たな産業創出に向けて
国産種トリュフ栽培技術の開発を目指す

○研究内容(実施体制)

①トリュフ苗木生産評価システム構築

トリュフ菌共生樹木苗を安定的に生産する技術を開発するとともに、トリュフ菌根形成状況を評価する技術を開発する。

（信州大学農学部、長野県森林総合センター、森林研究・整備機構）

②トリュフ栽培実証試験

耕作放棄地などを整備してトリュフ農園としてトリュフ栽培実証試験を行う。成果の普及に向けての栽培マニュアルを作成する。

（信州大学農学部、長野県森林総合センター、森林研究・整備機構）

○最終目標

- ・トリュフ菌共生苗の品質を評価する手法を開発する。
- ・2箇所のトリュフ栽培園実証試験地でのトリュフ菌の定着を根系でのトリュフ菌根形成により確認する。
- ・トリュフ栽培技術マニュアルを作成する。

○期待される効果・貢献

- ・トリュフ菌を共生させた高付加価値苗木の生産やトリュフ栽培事業
- ・国産の新規食材の流通による食品加工業や外食産業の発展

